

『言語からみた民族と国家』（田中克彦）を読み解く

内田, 諭
九州大学大学院言語文化研究院

<https://hdl.handle.net/2324/2348785>

出版情報：九州大学地球社会統合科学府&附属図書館コラボトークイベント「学際的な読書の深みへ：ワクワクの森へご招待」, 2019-10-23

バージョン：

権利関係：

学際的な読書の深みへ： ワクワクの森へご招待（第2回）

『言語からみた民族と国家』（田中克彦）
を読み解く

2019. 10/23

内田 諭 with 鬼丸武士先生

Kyushu University



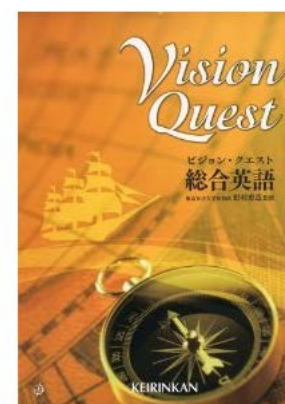
九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

自己紹介

- 内田 諭(うちだ さとる)
- 九州大学大学院言語文化研究院・准教授
- 九州大学大学院地球社会統合科学府
- 九州大学共創学部

【研究対象】

英語学(認知意味論、語用論)、応用言語学(英語教育学、辞書学)



言語学の「種類」

- 音韻論:「音声」の規則
- 形態論:「語(句)」の成り立ち
- 統語論:「語(句)」の並べ方のルール(=文法)
- 意味論:「語(句)」の意味 (man, boy, woman, girl; nation vs. country)

↑ ↑ ↑ ↑ 言語そのものの研究 ↑ ↑ ↑ ↑
↓ ↓ ↓ ↓ 言語とその周辺(外)の研究 ↓ ↓ ↓ ↓

- 語用論:「語(句)」と文脈の関係性
- **社会言語学:「言語」と「社会」の関係性**

意味論の方法:「言語」から「意味」を考える

- COCA(Corpus of Contemporary American English)
- [VERB (+4)]+country/nation

WORD 1 (W1): COUNTRY (2.40)

	WORD	W1	W2
1	[BE]	25359	10183
2	[HAVE]	6481	2115
3	[DO]	2611	591
4	[GO]	2577	436
5	[LEAVE]	2177	156
6	[COME]	2148	276
7	[
8	[
9	[LIVE]	1475	186
10	[TAKE]	1419	309
11	[TRAVEL]	1318	60
12	[GET]	1288	205

往来発着の起点=場所

WORD 2 (W2): NATION (0.42)

	WORD	W2	W1
1	[BE]	10183	25359
2	[HAVE]	2115	6481
3	[TALK]	1290	265
4	[LEAD]	841	780
5	[SAY]	792	1695
6	[FACE]	783	495
7	[BECOME]	766	724
8	[MAKE]	612	1768
9	[WILL]	606	1287
10	[DO]	591	2611
11	[WOULD]	504	1032
12	[HELP]	485	1140

語用論の方法:「文脈」から「意味」を考える

A: Would you like some coffee?

B: It keeps me awake.

文脈1: 夜で試験勉強をしている

文脈2: 夜でパジャマを着ている

→言語使用の「場面」や「文脈」を考慮に入れる必要がある

言語の「外」の要因

社会言語学とは？

- 社会的な変数が言語に与える影響を考える
→地域、階級、年代、性別など

方言→cf. 柳田國男(『蝸牛(かぎゅう)考』→**方言周圏論**)

階級差→敬語

世代差→やばい vs ヤバい

性差→「～わ」、「～よ」

言葉の社会的イメージ

→ピンク映画 (cf. blue film)

言語の変化

- 言語は絶えず変化する

- **規範主義 (prescriptivism)**

→言語の「正しさ」を追求する(「聖典」(辞書、文法書)が必要になる)

→共通性がないと意思疎通が図れない

→「過去」が拠り所

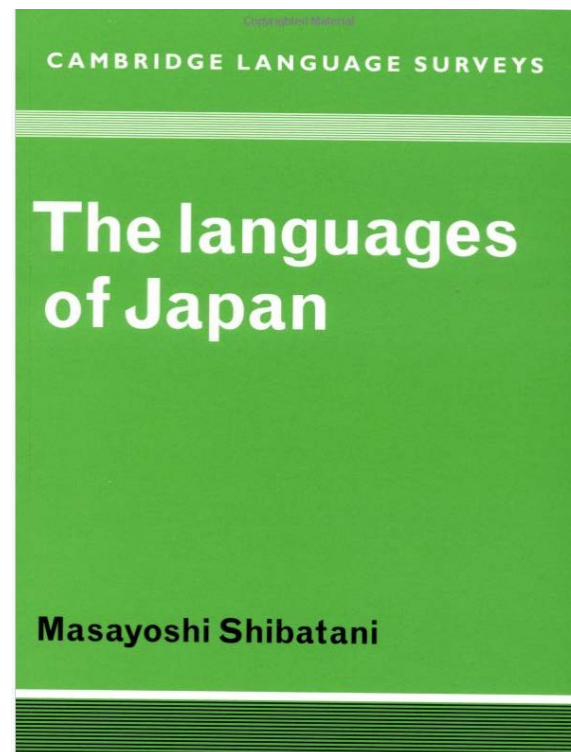
- **記述主義 (descriptivism)**

→変化を容認する。

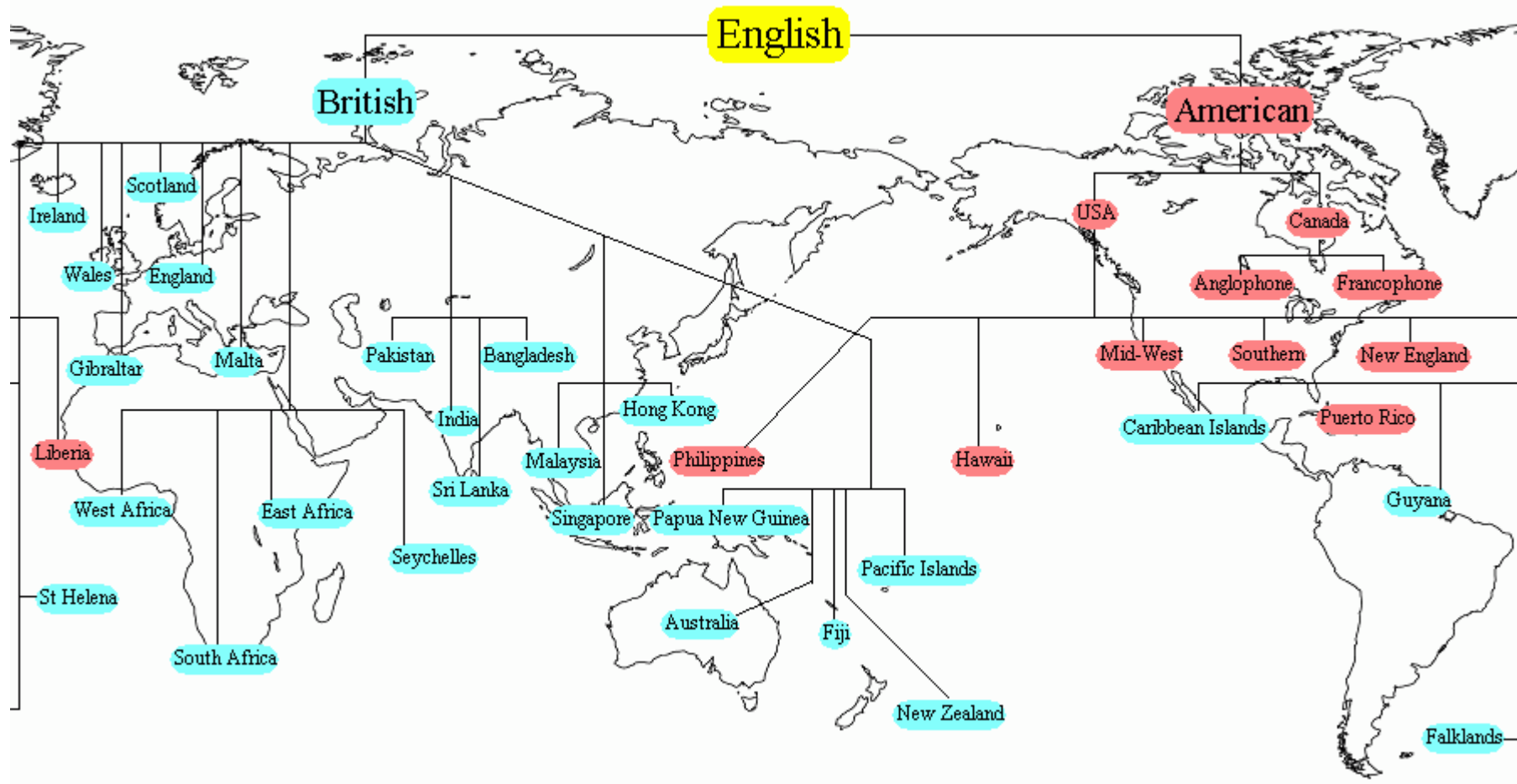
→体系的な「誤用」は変化の現れと捉える。(cf.食べられる: 可能 or 尊敬? 五段活用にはそもそも「ら」がない[書ける、読めるなど])

言語の区切り

- 日本語とは？
→cf.方言：関西弁、福岡弁、宮崎弁 etc.
- 琉球語 vs 琉球方言
→ある程度「都道府県」(地域)と対応している
- 英語とは？
→米語？豪語？インド英語？



英語の広がり



• <http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/2010-05-08-1.html> (出典)

→「**リング・フランカ**」としての地位

→歴史的な経緯から**地域性**がなくなる

本の目次

- 序 ダンテにおける「高貴な俗語」
- I エリートの国語
- II 柳田国男と言語学
- III カール・カウツキーと国家語
- IV ソ連邦における民族理論の展開
一脱スターリン体制下の国家と言語一
- V 国家語のイデオロギーと言語の規範
- VI ソビエト・エトノス科学の挑戦と挫折
- VII 固有名詞の復権

言語は誰のものか

- 文語

- エリートのため、学術のため、文学のため
- 思想を広く「伝達」する役割（共通性がないと困る）
- **規範主義的態度**（言語の**統一性**を求める）

- 日常語（俗語）

- 口語、「母」語；日常生活におけるコミュニケーション
- **記述主義**と親和的（**多様的で流動的**）
- ネブリーハによる俗語の文法記述
- 柳田國男の研究

言語は誰のものか

- 国家語(国語)

→「義務教育その他の、国家権力の行使によって行政的に採用されて課されるところの、政治的特権を与えられた特定民族語を指す」(p.121)

→政治・行政のため、法律のため



民族とは？

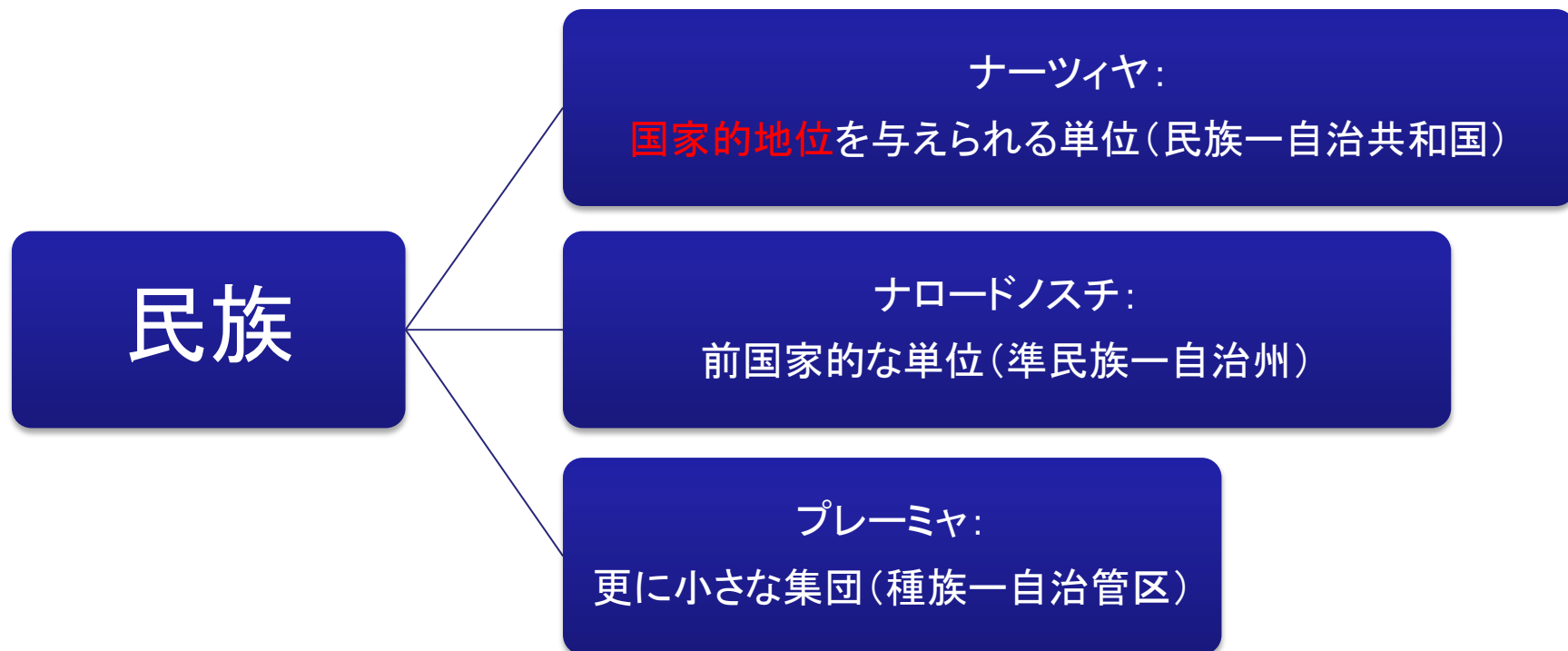
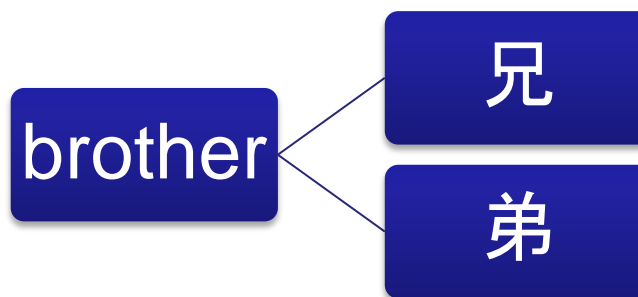
- 一定地域に共同の生活を長期間にわたって営むことにより、**言語**、**習俗**、**宗教**、**政治**、**経済**などの各種の**文化**内容の大部分を共有し、**集団帰属意識** (→エスニック・アイデンティティ) によって結ばれた人間の集団の最大単位をいう。(ブリタニカ)

cf. **地域**

→ 何が民族で、何が民族でないか？

→ 現実には**連続的**であり、区別は難しい

「民族」の細分化



ソ連における「民族」

Cf. オットー・バウアー：
民族的性格

- 源流はカール・カウツキー
→「地域」と「言語」を持つことを民族の要件とする
→この定義に従うと、ユダヤ人は民族ではない

- レーニン
→「地域」と「共通の言語」

民族から言語を奪うことは容易ではないが、民族から居住地域を奪(うことは)...行政的強権に訴えれば必ずしも不可能ではない(115)

- スターリン
→「言語、地域、経済生活、および**文化の共通性のうちにあらわれる心理状態**」 cf.唯物論(マルクス主義)

スターリンの言語観

- 「国家語」を定めない

→全く新しい諸民族共通語の出現への**過渡期**

→既存の「民族語」(ロシア語)の昇格

cf. エスペラント語(「単一の族際語」として、スターリンはエスペラント語を考えていた可能性がもっと高い [278])

#エスペラント語: ザメンホフ(ユダヤ系ポーランド人)が考案した人工言語(1887年)。最も広く知られた人工言語で、現在では母語話者も存在するとされる。

論点

- 民族と言語の関係
- 言語(方言)と帰属意識
- 言語と国家(地域)の関係(言語と方言の関係)
- 政策としての「国語」およびその教育
- 社会主義と言語(cf.資本主義、混合経済)